

# 全国学力・学習状況調査について

## 1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

## 2. 調査実施日

令和4年4月19日(火)

## 3. 調査の対象

泉佐野市立日新小学校 第6学年、全児童

実施児童数(58人)

## 4. 調査の内容

### (1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語、算数・数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりとする。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

ウ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

### (2) 学習状況に関する調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

### (3) 学校の取組に関する調査

調査対象の児童生徒が在籍する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

### 1. 全体の傾向

・平均正答率を見ると、泉佐野市より8ポイントのマイナス、全国と比較すると10ポイントのマイナスである。また、全国及び大阪府と比較し、上位層の割合が低く、中位層、下位層に位置する児童の割合が高い。

・分類、区分をみると全ての区分において全国よりも平均正答率を下回っている。特に学習指導要領の「書くこと」においては、その差が20ポイント以上あり、大きな課題であると考えられる。評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」においても、その差が約13ポイント、12ポイントとなっており、基礎基本の学習の定着に加えて、学んだことを活用することにも課題がみられた。

平均正答率（本校 54／泉佐野市 62／大阪府 64／全国 65.6）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特 徴 が み ら れ た 設 問
<p><b>○概ねできていた項目</b>                      ○話し言葉と書き言葉との違いを理解する                      1一【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する(81.5/85.5)                      ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える                      1三【話し合いの様子の一部】で中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する(83.3/84.7)</p> <p><b>●課題がみられた項目</b>                      ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる                      1四◇「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、口でどのように話すかを書く(40.7/47.7)                      ○表現の効果を考える                      2三◇【山村さんの文章】のBに入る内容として適切なものを選択する(53.7/59.2)</p>	<p><b>●●特に課題がみられた項目</b>                      ○登場人物の相互関係を、描写を基に捉える                      2一（2）「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切なものを選択する(59.3/70.6)                      ○人物像や物語の全体像を具体的に想像する                      2二物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】のAに入る内容を書く(53.7/68.3)                      ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章全体を整える                      3一【文章2】の□の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する(35.2/59.2)                      ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける                      3二○【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く(16.7/37.7)                      ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う                      3三ア○【文章2】の中の一部アを、漢字を使って書き直す（ろくが）(44.4/65.2)                      3三イ○【文章2】の中の一部イを、漢字を使って書き直す（はんせい）(46.3/58.7)                      3三ウ【文章2】の中の一部ウを、漢字を使って書き直す（したしむ）(40.7/67.1)                      ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く                      3四（一）から（二）に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する(59.3/77.9)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は好きですか	39.6	59.2	○	19.6
国語の勉強は大切だと思いますか	81.1	93.3	○	12.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか	79.3	91.8	○	12.5
解答時間は十分でしたか	31.0	66.0	○	35

- 「国語の勉強は好きですか」など国語の大切さを問う設問に対する回答より、国語科に対して苦手意識のある児童が多いと考えられる。国語を学習することで、「できるようになった」や「楽しい」と実感できるような授業づくりをしていく必要がある。
- 「解答時間は十分でしたか」の回答より、長文問題や設問の多い問題などに慣れておらず、自分にあった解答方法が見いだせていないことが考えられる。文章を読むことに慣れたり、文章の要旨を正しくとらえたりするためのとりくみをする必要がある。
- 後半の問題では無回答が多く、「解答時間は十分でしたか」の回答からもテスト時間が全くたりていなかったことがわかる。問題に慣れていないことも一因ではあるが、文章を読むこと自体に慣れておらず、長文を読むことに時間がかかったり、一度で理解したりすることに課題があると考えられる。普段の授業や家庭学習の中で、音読や速読、黙読など文章を読む活動を増やし、文章に慣れ親しむ経験が必要である。
- 「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章全体を整える」という趣旨で出題されている問題では、全国平均を24ポイント下回った。国語で学習する教材の構成や書き表し方などに着目して、「論理的」な読み方や書き方についてきちんと習得できるように、目的を明確にした授業づくりをしていく必要がある。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

### 1. 全体の傾向

・平均正答率を見ると、全国 63.2 ポイントに対し本校は 59 ポイントとマイナス 4.2 ポイントである。全国及び大阪府と比較し、中位層に位置する児童の割合が高い。

・分類、区分で見ると、学習指導要領の「変化と関係」において全国と比較し 5 ポイントの差があり、課題が大きいと考えられる。また数の処理やプログラミング的思考に関する問題に課題がみられ、筋道を立てて考える力が本校児童には必要であると考えられる。

平均正答率（本校 59／泉佐野市 61／大阪府 63／全国 63.2）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p><b>○概ねできていた項目</b></p> <p>○被乗数に空位のある整数の情報の計算をすることができる</p> <p>1 (1) <math>1050 \times 4</math> を計算する (96.3/92.4)</p> <p>○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる</p> <p>1 (3) カップケーキ7個分の値段を、<math>1470 \div 3</math> で求めることができるわけを書く (79.6/76.0)</p> <p><b>●課題がみられた項目</b></p> <p>○二つの数の最小公倍数を求めることができる</p> <p>1 (2) 14 と 21 の最小公倍数を求める (66.7/72.2)</p> <p>○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる</p> <p>2 (2) 果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く (57.4/64.6)</p> <p>○示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している</p> <p>2 (3) 果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ (14.8/21.4)</p> <p>○目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる</p> <p>3 (3) 1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ (57.4/66.8)</p> <p>○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している</p> <p>4 (2) 長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く (75.9/83.2)</p>	<p><b>●●特に課題がみられた項目</b></p> <p>○示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる</p> <p>1 (4) <math>85 \times 21</math> の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ (22.2/34.8)</p> <p>○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる</p> <p>4 (1) 示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す (35.2/48.8)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	84.4	93.3	◇	8.9
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていますか。	62.1	69.3	◇	7.2
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。	69.0	80.2	○	11.2
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。	63.8	76.8	○	13.0
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。	67.3	85.7	○	18.4

- 「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。」の設問に対する回答より、教員側から提示された方法でしか考えていない児童が多いと考えられる。自力解決の時間や、意見の交流の時間など、考えを比較できるような活動を取り入れていきたい。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の設問に対する回答より、公式やきまりさえ覚えていれば問題が解けると考えている児童が多いと考えられる。公式やきまりを知るだけでなく、公式にたどり着くまでの過程を既習事項から考え出す自力解決の時間も取り入れていきたい。
- 「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の設問に対する回答より、既習事項をもとにわからない問題に挑戦する力に課題がみられる。子どもが思考するための道具として、図や絵、数直線、などを身につけられるように、自力解決後の交流の時間に多くの考えを提示する時間を設けていきたい。またどの学習でも根気よく最後までやり切る指導の徹底をさらに進めたい。
- 「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」や「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」という趣旨で出されている問題では、全国平均を7.2ポイント、6.6ポイント下回った。割合を使用する実生活での経験が乏しいことが問題の場面を想像できない原因の一つであると考えられる。授業の中で実体験を伴う活動を取り入れたりと、割合が使われている実物を見ることができる導入を取り入れたりと、学習と日常との関連を児童に感じさせるとりくみを考えていきたい。
- 「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」という趣旨で出されている問題では、全国平均48.8%に対し、35.2%と、13.6ポイント下回った。図形の構成についてプログラミング的思考で考えることに課題が大きいと考えられる。算数の授業の中だけでなく、学校生活を通してプログラミング的思考を身につける活動を取り入れていきたい。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

### 1. 全体の傾向

・平均正答率を見ると、泉佐野市より8ポイントのマイナス、全国と比較すると13.3ポイントのマイナスである。全国及び大阪府と比較し、中位層に位置する児童の割合が高い。

・全ての区分において全国よりも平均正答率を下回っている。特に学習指導要領の「粒子」を柱とする領域においては、その差約17ポイントあり、大きな課題がみられる。評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」においても、その差が約16ポイント、11ポイントとなっており、基礎基本の学習の定着に加えて、学んだことを活用することにも課題がみられた。

平均正答率（本校 50／泉佐野市 58／大阪府 60／全国 63.3）

### 2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科	特徴がみられた設問
<p><b>○概ねできていた項目</b> ○問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる 1（1）見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ(90.7/92.9)</p> <p><b>●課題がみられた項目</b> ○提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる 1（4）資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのか選ぶ(66.7/76.1) ○観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる(59.3/65.5)</p> <p><b>●●特に課題がみられた項目</b> ○自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 1（2）自分の観察の記録と新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直し書く(55.6/67.5) ○昆虫の体のつくりを理解している 1（3）昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ(61.1/73.1) ○メスシリンダーという器具を理解している 2（1）一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く(37.0/67.8) ○自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる 2（3）水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ(51.9/62.8)</p>	<p>○自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 2（4）凍った水溶液について、試みたいことを基に、見いだされた問題を書く(24.1/39.3) ○日光は直進することを理解している 3（1）光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることのできる人を選ぶ(11.1/27.8) ○問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録している 3（2）実験の結果から問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ(61.1/74.4) ○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる 3（3）鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く(57.4/68.9) ○実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる 3（4）問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基に書く(22.2/35.1) ○観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる 4（1）冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ(66.7/82.3) ○予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができ 4（2）夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ(38.9/45.5) ○水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している 4（4）鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものか書く(38.9/62.0)</p>

### 3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は好きですか。	62.1	79.7	○	17.6
理科の勉強は大切だと思いますか。	75.8	86.5	○	10.7
理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。	60.4	67.9	◇	7.5
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	62.1	77.2	○	15.1
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	60.4	78	○	17.6
理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。	62.1	84.9	○	22.8
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	66.5	72.2	◇	5.7

○「理科の授業の内容はよく分かりますか」の回答に関しては全国と比べても大差はないが、「理科の勉強は好きですか」の回答は全国に比べて17.6ポイントのマイナスになっている。内容は理解しているが、そこから先、興味をもち自分から勉強したいという気もちまでは至っていない。理科を学習することで、「楽しい」や「もっと知りたい」と実感できるような授業づくりをしていく必要がある。

○「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」の2つの回答より、なんのために理科の学習をしているのかが児童の中で理解できていないと考える。実生活と結びつけ、学習と日常との関連を児童に感じさせるとりくみが必要である。

○「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。」「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。」の2つの回答より、授業では観察や実験をただ単にこなしているだけになっていると考える。児童自身に実験方法や考察を考えさせたり、実験道具を準備させたりする活動を取り入れていきたい。

○学習したことが単元で途切れ、基礎基本が定着できていないと考える。教員が単元のためのつながりを理解し、下学年で学習したことをふり返ったり、日頃から理科で学習した知識を活用するような問題を解く機会を増やしたりするなど、学習内容の定着を図るとりくみをしていきたい。

令和4年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【家庭生活の様子】	<p>○就寝時刻などの家庭での生活リズムが不規則であり委員会活動などで啓発が必要である。</p> <p>○SNS や動画視聴に多くの時間を費やす児童が多い。</p>	<p>○毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(68.9/80.7)</p> <p>○毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(77.6/90.4)</p> <p>○普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか。(学習に使用する時間は除く) 2時間以上と回答 (49.9/32.5)</p>
【家庭学習の様子】	<p>○自分で計画を立てて勉強する割合は全国と比べて10ポイント以上低い。</p> <p>○休日の家庭学習の時間が短い。</p> <p>○読書に時間をかける児童の割合が低い。読書の良さを感じる機会を増やし、読書に親しもうとする姿を育てる。</p>	<p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む) (60.3/71.1)</p> <p>○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾、家庭教師との学習、インターネット学習を含む) (12/26.2)</p> <p>○学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) (20.7/36.4)</p> <p>○読書は好きですか。(51.8/73.1)</p>
【学校での学習の様子】	<p>○低学年のうちから自分と違う意見と出会う機会を増やし、違いを楽しめる素地を養っていく必要がある。</p> <p>○学校の授業等で ICT 機器の積極的な使用をしていく必要がある。</p> <p>○児童自身が課題を意識することができるように課題を工夫する必要がある。</p> <p>○学習したことや話し合ったことを、自分のこととしてとらえ、実行にうつすしかけが必要である。</p>	<p>○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。(43.1/73.5)</p> <p>○学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使っていますか。(インターネット検索など) (29.4/76.1)</p> <p>○学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。(65.6/78.2)</p> <p>○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(41.4/72.7)</p> <p>○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。(62.1/73.5)</p> <p>○学級活動における学級での話し合いを生かして、今自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。(65.6/73.8)</p>
【自己肯定感】	<p>○前向きな思いを持てるように、一人ひとりを認め褒めることを増やし、成功体験を積みせたり、失敗してもよい雰囲気づくりをする必要がある。</p>	<p>○自分には、よいところがあると思いますか。(70.7/79.3)</p> <p>○将来の夢や目標を持っていますか。(72.4/79.8)</p> <p>○自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。(75.9/87.2)</p> <p>○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか。(62/72.5)</p> <p>○学校に行くのは楽しいと思いますか。(75.9/85.4)</p>



## 本校の取組

### ◎これまでの取組

本校では昨年度までの5年間で、児童の学力実態を踏まえ、主に算数科を中心に「自ら考え、表現できる子どもの育成」をめざして以下のとりくみを進めてきた。

- ①基礎・基本を徹底した学習【授業・朝学・家庭学習など、やり切りの習慣化】
- ②学習規律の徹底【泉佐野スタンダードや日新小学校の心得を生かした月一回のふり返しなど】
- ③校内で自作したテストの実施【問題の出し方の工夫⇒結果を分析し指導につなげる】
- ④算数授業の進め方を学校全体で統一【図や絵を用いた自力解決自力発見型授業の充実】
- ⑤ノート指導【教員の研修などを通して指導の統一化を図る】

その結果、算数科においては、一定の学力の定着は図れていると考えられる。それは、この5年間のとりくみが積み重なり、全校での算数科の指導のつながりが活かされた結果だと考えられる。しかしながら、国語科においては、課題が大きい。そこで本年度から研究教科を国語科とし、「言語活動を関連させた書く力の育成」をめざして校内研究を進めてきている。国語科においても全校での指導のつながりを図り、全職員で研究を進めていく必要がある。特に「書くこと」において大きな課題がみられた。「書く力の育成」をめざして児童の課題をつかみ、とりくみを進めていきたい。

### ◎これからの取組

#### 学 習

○国語においては、長文を読むことや「書くこと」において大きな課題がみられた。また、国語科の学習への関心そのものにも課題がみられた。これらの結果を受けて、まず読み書きに関する基礎基本の定着に重点をおき、以下のことにとりくんでいく。

- ①朝学習のなかで、引き続き視写にとりくみ、正しい文章を読んだり書いたりすること
- ②音読、速読、黙読の時間を確保し、注目する部分を確認してから、めあてをもって読むこと
- ③必要な情報を読みとること、文字数・キーワードなど条件のある問題にとりくむこと、自分で要旨をまとめる機会などを増やすこと
- ④国語の校内テスト・アンケートを実施し、児童の定着度を把握し、とりくみを考えること
- ⑤書く意欲、書く自信を児童がもてるための授業研究にとりくみ、指導の改善・つながりを図ること

○算数においては、『変化と関係』の領域、あきらめずに解こうとする態度、よりよい解決方法を見つけることなどに課題がみられた。これまで積み重ねてきた研究を大切に、以下のことにとりくんでいく。

- ①子ども自身が問題を粘り強く読み取り、自ら考え表現し、子ども同士がつながる授業づくり
- ②必要な情報をつかみ、よりよく問題が解決できる方法を見つけ出す授業の展開
- ③実生活につながる問題場面や数が実感できるような学習場面の充実
- ④既習事項や図・絵などを使い、公式にたどり着くまでの過程を大切にする自力発見型授業の充実

○理科においては、特に器具の名前など、基礎知識の定着や考えたことを自分の言葉で書くなどの課題に対して、以下のことにとりくんでいく。

- ①新しい単元の際、指導者がたてのつながりを意識して既習内容をふり返ること
- ②学習した内容を活用した問題を解く機会を増やすこと
- ③まとめや考察などを児童の言葉で書く機会を増やすこと
- ④実験方法を児童に考えさせたり、児童自身が実験に必要な用具を用意したりする機会を増やすこと
- ⑤児童が「楽しい」「もっと知りたい」と実感できるような授業づくり

#### 学校生活

質問紙から分析した課題に対して、日々の学校生活を通して以下のことにとりくんでいく。

- ①互いに認め合い、高め合える集団づくり
- ②ペアやグループ活動を充実させ、多様な考えにふれる機会づくり
- ③学習のまとめや、テストに向けた家庭学習の充実を図るしかけ
- ④朝読書や電子図書の活用、委員会活動をいかした読書に親しむためのとりくみ
- ⑤特別活動や総合、道徳、日々の学校生活のなかで、自分たちで考えて行動にうつす場面づくり